

令和 3 年度 県立鉾田第一高等学校附属中学校自己評価表

| 目指す生徒像 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 思いやりの心や感動する心、挑戦する心を持ち、協働して物事に取り組める生徒 ・ 確かな学力と広い視野を持ち、主体的に課題解決できる生徒 ・ 高い志をもって仲間たちと切磋琢磨し、充実した学校生活を送れる生徒 ・ 地域を活性化し、地域社会に貢献できる生徒 | | |
|--|---|---|--|
| 昨年度の成果と課題 | 重点項目 | 重点目標 | 達成状況 |
| <p>今回の中高一貫教育解説の目的を受け、本校では、中学校開設の意図を地域の小中学校に伝えるとともに、教育関係者の理解を求めながら、開校まで進めてきている。</p> <p>教育課程の特性を生かした先取り学習と授業時間数増、国語・数学・英語における習熟度別学習等を実施し、教育課程編成や授業割り振りを行った。学校と家庭での学習を両輪として進んでいく学習体制は生徒の学力のために不可欠なことである。そこでICT機器を導入し、学校と家庭を連携する取組を進めているところである。</p> <p>生徒の主体的取組をさらに進め、学級活動、委員会活動、学校行事等の活発化を目指している。部活動は、運動部 3、文化部 11 と限られた数の中でも、活発に活動でき</p> | 基礎学力・授業の質の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「課題テスト」の年間 30 回実施を通して、基礎学力を定着させる。 ・ 基礎基本を定着させるとともに、発展的学習や学校設定科目の内容を充実させる。 ・ 自ら課題を発見し、課題解決学習に取り組む素地を養う。 ・ 授業力向上のため、教員間の授業観察と校内授業研修を推進し、職員の指導力及び授業の質の向上につなげる。 ・ 指導力向上のため、職員が外部講習等に積極的に参加する。 | <p>英語・国語において、週 1 回「課題テスト」を行い、語彙力を向上させることができた。授業では、基礎的基本的学習内容の定着を徹底するとともに、6 年間の意識した授業を展開することができた。総合的な学習の時間を中心として、各教科で課題解決学習を意識した授業を展開した。教科横断型の授業展開について、教職員間で積極的な研修を行った。</p> |
| 個に対応した指導の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 習熟度別授業の指導方法、指導内容を充実させる。 ・ 少人数授業の効果を高めるために担当者間の連携や、授業方法の創意工夫を積極的に行う。 ・ 特別な支援を必要とする生徒の指導に対応する研修会を実施する。 | <p>英語・数学・国語で連携の上、学習時期や教材の進度に応じて、重点指導科目を設定して弱点の補強等を行った。</p> <p>スクールカウンセラーと連携し、特別な支援の必要な生徒の対応を行った。次年度は研修会を充実させたい。</p> | |
| 進路意識・進路実績の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 中高一貫教育を基盤として、職員が指導力を高め、生徒の進路意識高揚や進路目標達成につなげる。 ・ 各学年の進路行事の意義を十分に指導し、自己の在り方生き方について考えさせる。 ・ 生徒との個別面談を充実させ、進路目標を明確化させる。 ・ 進路に関する講演などで収集した正確な情報を進路指導に活用する。 ・ 難関国公立・私立大学の合格者数増に繋がる学習を継続させる。 | <p>各教科で、高校の学習内容を見据え、指導を工夫することができた。</p> <p>進路目標達成につなげられるように、学習に関する講演会を実施して、生徒が学習の取り組み方について考える機会をつくることができた。</p> <p>複数担任制により、生徒の興味・関心などの情報を担任間で共有し、指導にいかすことができた。</p> | |
| 特別活動・部活動の活性化 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校行事への積極的な参加を促し、学級活動・生徒会・委員会の活動で主体的に取り組み、社会に貢献できる人材、グローバル社会で活躍できる人材を育成する。 | <p>新型コロナウイルスの影響で、本来の活動ができなかった。次年度は新しい生活様式のもとで、できる限り実施してい</p> | |

| | | | |
|---|-------------|---|--|
| <p>るように指導助言を加えていく。</p> <p>広範囲から生徒が通うため、新たな友人関係づくりが必要とされる。生徒一人一人の居場所があり、好ましい人間関係づくりが望まれる。</p> <p>・情報発信の機会は適切で、回数は増加している。的確かつ迅速に情報発信できるように、学校評議員制度の活用やホームページやアンケートなどの広報広聴活動を工夫する。</p> | | <ul style="list-style-type: none"> 部ごとに活動目標を明確にし、県大会以上の大会に出場できる部を増やす。 キャリアパスポートを効果的に活用するために、生徒自身の足跡をきちんと残せるように指導する。 | <p>きたい。</p> <p>キャリアパスポートは、年間の見通し、振り返りに重きをおき、活用した。</p> |
| | マナーや規範意識の向上 | <ul style="list-style-type: none"> 全職員が共通理解を持って指導にあたり、生徒が率先してルールやマナーを順守しようとする態度を育てる。 全体的な取り組みと合わせて、生徒一人一人の特性に応じた指導を図る。 | 職員間で密に連携を行い、共通理解をもって指導にあたることができた。生徒一人一人の特性に応じた指導を図ることができた。 |
| | 学校評価の推進 | <ul style="list-style-type: none"> 自己評価、外部評価の内容や評価方法・評価対象等を検討する。 学校評議員制度などを通して家庭・地域社会の本校への要望や期待を把握する。 ホームページやアンケート等の広報広聴活動を充実させ、学校を活性化させる。 | 学校評議員の評価はもとより、保護者の評価を集計し、教員にフィードバックし授業改善の一助とした。ホームページの掲載を一週2～3回実施した。保護者や地域の方々、市町村の学校関係者から好評価を得ることができた。 |
| | 働き方改革 | <ul style="list-style-type: none"> 中学校教員の役割を適切に配し、効率的な計画・準備を実施する。 ペーパーレスで打合せを行い、用紙と印刷・綴じ込みの時間の節約を行う。 業務を進める際には、必ず終了時刻を明確にしておき、効率よく仕事を行う。 | 年度始めから入念な打ち合わせを行い役割ごとに業務を遂行している。クロームブックを活用したペーパーレスの打ち合わせによって、時間節約につながった。終了時刻厳守で会議を行っている。 |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度（学期）への主な課題 | |
|------------------------|--|---|--|--|--------------------------|
| 国語 | ・国語への興味関心の高揚と基礎的な知識の定着 | ・図書館との連携を強化し、読書指導の充実を図る。 | A | <p>語彙力や読解力を育成する取り組みを積極的に行うことができた。授業や課題等を工夫し、それらの力を更に育成したい。</p> <p>グループ学習等でICTを活用し、生徒間やグループ間の意見の共有を図ることができた。次年度は、生徒たちが自主的に活用できるよう、使用する場面を工夫したい。</p> | |
| | | ・漢字、語彙の学習を通して、表現に必要な基本的な知識を身につける。 | A | | |
| | ・読解力、表現力の養成 | ・文章を要約したり、スピーチを聞いてまとめたりする学習を通して、他人の考えを分析的に理解する力や批評する力を養う。 | A | | |
| | | ・複数の意見を比較する学習を通して、幅広い視野や考え方を養う。 | A | | |
| | | ・生徒が主体的に学習する環境の整備 | ・ICTを積極的に活用した授業を展開し、学校図書館や地域の図書館との連携強化を図る。 | | A |
| | ・生徒が主体的に学習に取り組むよう、授業の展開や単元テストの内容を工夫する。 | | A | | |
| ・課題の設定を工夫し、学習習慣の確立を図る。 | B | | | | |
| ・指導技術の向上 | ・教員間の授業公開や意見交換を積極的に実施し、指導技術の向上を図る。 | B | | | |
| 社会 | ・年間指導計画に沿う見通しをもった学習指導 | ・年間指導計画に沿って授業を行い、毎時の授業目標や学習のポイントを明確にすることで、わかりやすい授業を目指す。 | A | A | 教科の特性を踏まえてのICT活用を進めることがで |

| | | | | | |
|------------------|------------------------------------|---|---|---|--|
| | ・基礎的内容の理解の徹底と授業方法の研究 | ・「授業第一主義」のもと学習態度を涵養し、基礎的知識の確実な習得を図り、思考力・判断力・表現力の土台を固めるよう努める。 | A | | きた。Chromebook を活用し、動画の活用やスライドのまとめを行う場面を多く設定することができた。次年度は、授業のまとめの段階における ICT 活用をさらに進めたい。また、単元テストが知識の定着や生徒の弱点把握につながるように配慮したい。 |
| | | ・ICT教育のさらなる推進を行い、パワーポイントやデジタル資料、クロームブックの活用を前提とした授業展開に努める。 | A | | |
| | | ・単元テストの実施を通して知識の定着を図り、生徒の理解力を把握し授業を行うように努める。 | B | | |
| | | ・科目の特性に応じた教材の創意工夫に努め、「分かりやすい授業」を展開することに努める。 | A | | |
| | | ・高等学校への接続を考慮し、共通テストに向けての対策・指導方法の研究を行う。また、定期考査等の作問方法を工夫する。 | A | | |
| | | ・担当者間による実力テスト結果の分析を行い、生徒の学習に反映する。 | B | | |
| | ・現代の社会への関心の高揚 | ・我が国の伝統や文化、法や金融、消費者行政等に関する問題解決的学習を展開し、現代の社会への興味・関心を高めさせる。 | A | | |
| 数学 | ・きめ細かな授業の展開 | ・生徒の理解度を把握して、授業の展開や説明方法を工夫する。 | A | A | 提出された宿題や試験の結果を分析して、授業の内容や進度を調整しながら指導することができた。内容を補充するプリントに取り組みさせるなど、発展的な内容も扱うことができた。放課後に質問会を開き、生徒の学習を支援した。 |
| | | ・1学級を2つに分けるなどして、基礎学力の定着を図る。 | A | | |
| | ・家庭学習習慣の確立と応用力の養成 | ・問題集等の課題により、家庭学習習慣の確立を図る。 | B | | |
| | | ・授業で問題演習の時間を確保し、発展的な内容も扱う。 | A | | |
| | ・意欲ある生徒への指導 | ・難度の高い問題も提供し、意欲ある生徒の数学力の伸長を図る。 | B | | |
| | | ・中学・高校担当の枠を越えて、放課後等の生徒の質問に対応する。 | A | | |
| ・指導技術の向上と指導方法の工夫 | ・授業参観を相互に行い、意見交換を行う。 | B | | | |
| | ・中学・高校担当の枠を越えて、問題の解法や指導方法について研究する。 | A | | | |
| 理科 | ・学力の向上 | ・単元テストを実施し、知識の定着を図る。 | A | A | 実験・実習を中心に学習を進め、単元テストを習熟度の確認・復習の機会とした。学力の向上とICTの推進が今後の課題として残った。特に科学的思考力の育成に重点を置いて指導する必要がある。 |
| | | ・生徒に必要な学力を身に付けさせるために、授業を工夫し、学習活動を充実させる。 | B | | |
| | ・設備、備品の充実 | ・実験・実習による学習によって、体験させて興味関心を持たせ、学習意欲を持続させる。 | A | | |
| | | ・設備備品を徐々に整備し、学習環境を良いものにしていく。 | A | | |
| | | ・Chromebook, GSuite を中心とした ICT の効果的な活用を行う。 | B | | |
| | ・指導力の向上 | ・共通テストに向けての対策・指導方法の研究を行う。 ・高校の各科目と連携し、教材研究を行う。 | A | | |
| 音楽 | ・音楽表現への意欲 | ・視聴覚教材等を利用して分かり易い授業の展開を図り、音楽・音楽文化への興味関心を高め、音楽表現への積極的な取り組みを促す。 | A | A | 音楽・音楽文化への関心をさらに高めるために音楽 |

| | | | | | |
|------|--------------------|--|---|---|--|
| | ・表現の技能の習得 | ・様々な楽器の演奏を体験させ、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけさせる。 | B | | に親しむ態度を育てるとともに、技能の向上を進める。 |
| | ・音楽に親しむ態度の育成 | ・古典的な音楽から現代音楽まで幅広い音楽を視聴することで、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に親しんでいく態度を養う。 | A | | |
| 美術 | ・主体的表現活動 | ・芸術作品の良さや表現技法を学ぶことから、自己表現及び創造力の追求を目指す生徒を育てる。 | A | A | <p>感染予防に配慮した授業形態で、絵画中心の制作になった。</p> <p>技術との教科横断的授業で立体造形を学習内容に取り入れた。</p> <p>授業形態に合わせて学習内容を精査し、展開を工夫する。</p> |
| | ・個々の能力を伸ばす工夫 | ・個々の力を伸ばすため、補助や助言を行ったり、手本を示したりして、個人指導の充実を図る。 | A | | |
| | | ・積極的な作品作りを促し、実技を伸ばすとともに、様々な表現技法を習得させる。 | A | | |
| | ・鑑賞する力の育成 | ・数多くの芸術作品に触れさせ、鑑賞の能力を高めるとともに、芸術を愛好する心を育む。 | B | | |
| 保健体育 | ・体力の向上 | ・新体力テストの総合評価を伸ばす。 | B | B | <p>体力テスト種目の結果を受けて次年度の目標を明確にしていきたい。体力向上につながる学習を継続することができた。保健では、パワーポイントを活用した授業展開を行った。グループ討論の時間を確保したい。</p> |
| | | ・生徒の運動時間を確保し、自ら体力を高める学習の工夫を行う。 | A | | |
| | ・選択授業の充実 | ・選択授業を通して運動の楽しさを実感させ、自主的・自発的に活動できる能力を養う。 | B | | |
| | ・規範意識の醸成 | ・授業を通して、ルールやマナー及び時間を守る態度を養う。 | A | | |
| | ・副教材を利用した授業の工夫 | ・Google Classroom, 保健体育ノート, パワーポイント, DVDなどを活用し、わかりやすい授業の展開を図る。 | B | | |
| 技術 | ・生活に関する基礎的知識と技術の習得 | ・生活に関する情報を授業に積極的に取り入れ、社会の変化に対応した知識と技術を身につけさせる。 | A | B | <p>木工を中心に授業を展開した。</p> <p>美術との教科横断的授業で立体造形を学習内容に取り入れた。</p> <p>工具を使う授業では複数の教員が補助に入り安全に配慮して実習できた。</p> <p>(情報の学習は、令和3年度から実施)</p> |
| | | ・生活実態に応じた実験・実習を多く取り入れ、日常生活に応用できる知識と主体的に行動できる力を養う。 | A | | |
| | ・社会の変化に応じた生活技術の向上 | ・学習ノートを活用し、授業の記録を緻密に行わせるとともに、生活や社会の中から課題を見出し、解決に向けた考えや意見をまとめる力を養う。 | B | | |
| | | ・日頃から報道やその他の情報を取り入れ、より良い生活の実現や持続可能な社会の構築に向け生活を工夫し実践していこうとする態度を養う。 | B | | |
| | ・情報活用能力の育成 | ・表計算ソフトや文書作成ソフトを用いて、様々なデータを扱う上で 最小限心得ておくべき資質を身に付けさせる。 | — | | |
| | ・情報セキュリティ意識の向上 | ・情報活用に関する興味関心を持たせるだけでなく、情報化の負の部分にも配慮し、情報モラルやセキュリティに対する意識を育てる。 | — | | |
| 家庭 | ・基礎的知識と技術の習得 | ・生活に関する基礎的知識と技術を、実習を通して習得を図る。 | B | A | 新型コロナウイルスの感 |

| | | | | | |
|-----------|---|---|---|---|---|
| | | ・生活に関する最新の情報を授業に取り入れ、社会の変化に対応できる能力を養う。 | A | | 染状況を考慮しながら、実験実習を取り入れ、主体的に生活できる力を養っていききたい。 |
| | ・生活の向上を図る実践的態度の育成 | ・実験、実習を取り入れ、日常生活に応用できる知識と主体的に行動できる力を養う。 ・学習ノートを活用し、社会問題に対する意見をまとめる力を養う。 | A | | |
| | | | A | | |
| 英語 | ・Google Classroomを活用し具体的目標を意識させた学習習慣の確立 | ・Google Classroomを活用し、主体的に生徒が学習できるようにする。 ・Google Classroomの内容を充実させる（宿題や課題テスト及び単元末テスト等）。 ・意欲的に英語学習ができるよう英検、ALTの活用を促す。 ・課題テストを年30回実施し、学習の習慣化を一層図る。 | A | B | Google Classroomを活用し復習や課題解決学習を中心に、生徒の主体的な学習につなげることができた。また、外部試験やALTを活用し、生徒の英語に対する意欲を高めることができた。 Classiの活用及び多読については今後一層の充実を図る必要がある。 |
| | ・生徒の多様な学力に応じた指導の充実 | ・少人数授業の利点を生かし、授業・復習のサイクルの確立を図る。新テストでも必要とされる4技能を総合的に伸ばせるよう、活動と指導法の創意工夫に努める。 ・補習やClassi等をとおして、個別対応を充実させる。 ・個々の英語力に応じてサイドリーダーを利用して多読を奨励する。 | B | | |
| | | ・GTECを実施し、個々の英語総合力を判断する。また弱点部分を補填・強化できるよう事後の指導に役立てる。 ・英検受験を奨励する。 | B | | |
| | ・英語4技能の向上 | ・「聴く・話す・読む・書く」の4技能包括型活動を積極的に取り入れた授業を実践する。 | B | | |
| 道徳 | ・目標達成のための授業の展開 | ・自己を見つめること、物事を多面的・多角的に考える力、人間としての生き方についての考え等を道徳の資料をもとに意識させ、道徳的実践力を育てる。 | A | A | 生徒が自分自身の意見を発表する場面や、他者との意見の違いを感じられる場面を意図的に設定し、物事を多面的・多角的に考えられるような授業展開を行った。評価においては、生徒の変容を見取ったデータをどのように蓄積させるかが課題である。 |
| | ・道徳資料の有効活用 | ・道徳の教科書に加えて、日常生活や社会の出来事など、道徳性を追求できる資料を活用して生徒が積極的に話し合える授業を行い、道徳的価値を十分に考えることができるようにする。 | A | | |
| | ・教育活動全体を通じた道徳 | ・道徳科が道徳教育の要であることを基本に、各教科、総合的な学習の時間、特別活動はもとより、学級活動、給食、清掃等、その都度道徳的価値判断に基づいて行動できているかに注視し、短時間でも道徳性を養う助言や支援を生徒に施していく。 | A | | |
| | ・道徳の評価 | ・道徳性にかかる成長の記録を継続的に把握し、個々の伸びを肯定的に捉えることとする。 | B | | |
| 総合的な学習の時間 | ・探究的な学習への取組 | ・探究的な学習の良さを実感するために、生徒の知的好奇心を刺激し、自分の住む地域を調べていこうとする意欲を持って調べていこうとする生徒を育てる。 | A | A | 生徒の興味関心のある事柄について、積極的に関わらせることができた。社会参画についてはより充実を |
| | ・社会や地域活動への参画 | ・探究的な学習を通して調べたことや実践を生かすために、自分の地域の活動に参加したり、地域に貢献できる活動を行ったりして、社会参画しようとする資質を | B | | |

| | | | | | |
|------|--|--|---|---|--|
| | | 養う。 | | | 図る必要がある。 |
| 教務 | ・授業時数の確保 | ・授業時間を確保するとともに、曜日毎の授業時数の均等化を図る。 | A | B | 緊急事態宣言時はオンライン授業により授業時数を確保できた。 少人数授業については、生徒のモチベーションを引き上げる方策を工夫したい。 |
| | ・充実した授業を目指した教育課程の編成 | ・各教科と連携し、生徒の学力や進路志望に即した教育課程を研究し、編成する。 ・少人数授業におけるグループ編成を工夫するなど、より効果的な授業展開の方策を研究し、生徒の学力向上を図る。 | B | | |
| | ・行事等の円滑な運営 | ・各分掌とのコミュニケーションを密にし、学校行事の日程やそれに伴う日課の調整を行い、学校運営を円滑にする。 | B | | |
| | ・成績等の円滑な処理 | ・情報管理部と連携し、校務支援システムを活用した成績処理や各種帳票類の作成を円滑に進める。 | A | | |
| 広報広聴 | ・本校の魅力や生徒の活動の積極的な発信による「銚一ブランド」の確立 | ・スクールガイド、ポスター（3種類）、プロモーション用動画の作成 ・小学校訪問の実施 ・進学フェアへの参加 | A | A | 学校HPを中心に本校の活動を積極的に発信した。本校の魅力や生徒の活動内容が閲覧しやすいようにレイアウト変更も行った。次年度以降も継続して更新していきたい。 |
| | | ・オープンキャンパス（小学生対象）の企画、運営 ・学校公式ウェブページの内容の充実 | A | | |
| | ・本校に対する外部の声の広範囲からの収集 | ・学校評価アンケートの実施、集計、分析 | A | | |
| 指導研修 | ・学習習慣の確立 (平日の最低家庭学習時間 学年+1時間の確保) | ・Google Classroomを使用した家庭学習の確立 | A | B | Classroomを活用し、効果的に学習につなげている。一方で、Classiの活用は一層の充実を図る必要がある。 |
| | | ・Classiを使用した家庭学習の確立 | B | | |
| | | ・学習時間調査の実施（年1回） | B | | |
| | ・効果的な学習指導法の研究と実践 | ・「授業評価」（授業アンケートの実施、「授業参観メモ」の配付） | B | | |
| | | ・「教科内授業研究」を年2回実施 ・「教職員研修会」を他分掌とも企画し、年2回実施 | B | | |
| 情報管理 | ・持続可能な情報環境の維持と情報資産の有効利用 | ・効率的な運用と管理・・・事務室との連携 教員セグメント 普通教室及び特別教室セグメント パソコン室セグメント ・各セグメントのソフトウェアのバージョンの統一を検討する。 | B | B | どの項目に関しても現状維持に留まった。今後は教室の環境整備を含め、より学びやすい環境を作りたい。また、働き方改革の一環として、校務セグメントPCの増設を進めていきたい。 |
| | | ・緊急情報メールシステムの普及と有効な運用に努める。 | B | | |
| | | ・各種データベースの保守・・・学年・関係分掌との連携 校務支援システム 進路情報システム 蔵書管理システム ・情報セキュリティの実施手順に沿って、情報機器等の扱いに関する内規等を整備する。 | B | | |

| | | | | | | |
|--------|--|--|---|---|--|--|
| | ・教員研修の充実 | ・個人情報管理研修を実施し、個人情報管理ガイドラインの運用上の問題点に対応する。 | A | | | |
| 生徒指導 | ・生徒が安心安全に学習活動・部活動に取り組める生活環境の整備 ・基本的な生活習慣と規則を守る態度の育成 ・各学年及び各部署と連携した生活指導の推進 ・高等学校への接続を意識した生徒指導の推進 | 生活関係 | | A | <p>服装や髪型での指導を受ける生徒は少なかった。また、さわやかマナーアップ運動では保護者と協力して、生徒のマナー・モラル向上を図ることができた。いじめについても定期的なアンケートや生徒との面談を通して、早期発見に努め、教員間で連携して、いじめを許さない姿勢を生徒に示すことができた。</p> <p>インターネット利用に関して指導することが多かったため、学年でマナー講座を開いた。しかし、学校再開後であったため、次年度は早期に講座を実施し、早い段階でのマナーやモラルの再認識を図る必要がある。</p> | |
| | | ・各学年と連携して、服装髪指導の徹底を図る。 | A | | | |
| | | ・集会等でルールやマナーについての意識の啓発を図る。 | A | | | |
| | | ・登校指導を実施し、制服の着こなしや挨拶の励行を徹底する。 | A | | | |
| | | ・さわやかマナーアップ運動を通して、マナー・モラルの向上を図る。 | A | | | |
| | | ・時間を自己管理できるよう、継続的に声をかけ、時間を守る意識を高める。 | B | | | |
| | | ・貴重品の管理及び移動教室時の施錠を実施する。 | B | | | |
| | | ・スマートフォンの使用について、ルールやマナーを遵守できるよう啓発を図る。 | B | | | |
| | ・非行や事故等の未然防止と早期発見に向けた取組 | 交通関係 | | | | |
| | | ・交通指導の実施 | A | | | |
| | | ・交通安全講話の実施 | B | | | |
| | | ・自転車点検及び交通安全指導の実施 | A | | | |
| | | 問題行動未然防止対策 | | | | |
| | | ・被害調査（アンケート等）を実施し、問題行動の早期発見・初期対応に努める。 | A | | | |
| 教育相談 | ・支援が必要な生徒の早期発見 | ・『相談室だより』などによる生徒・保護者への広報 | A | | | |
| | | ・「教育相談アンケート」の実施と、その結果の分析・検討 | A | | | |
| | | ・学年会議での情報収集 | A | | | |
| | | ・生徒情報の整理と関係者によるミーティング | A | | | |
| | ・適切な援助活動の実施 | ・援助が必要な生徒との面談・必要に応じて保護者との面談 | A | | | |
| | | ・保護者、校内関係者間の円滑な連携の援助 | A | | | |
| | | ・スクールカウンセラーとの連絡、調整 | A | | | |
| | | ・特別な支援を要する生徒についての情報交換及びケース会議 | A | | | |
| | ・教育相談研修 | ・校内研修会（各部との連携等）の計画と実施 | B | | | |
| | | ・外部で行われる研修会の紹介と参加 | C | | | |
| キャリア支援 | ・体系的な進路指導の実施 | ・中高一貫教育を生かした進路行事の運営について調整する。 | B | | | |
| | | ・1学年では、探究活動で地域を調べる活動を通して職業人としての将来を考えさせる。 | A | | | |

| | | | | | |
|------|----------------|---|---|---|--|
| | | せ、職業観の育成に努める。 | | | <p>への理解を深めることができた。</p> <p>複数担任制により、生徒の興味・関心などの情報を担任間で共有し、指導に生かすことができた。</p> <p>学習に関する講演会を実施して、生徒が学習の取り組み方について考える機会をつくった。</p> <p>教科間で情報を共有し、授業の進度や宿題の量を調整しながら、生徒の家庭学習の習慣化を図った。</p> |
| | | ・ 2 学年では、国内語学研修を通して国際的な視野を育てるとともに、科学的な研究にも触れ、グローバルに活躍しようとする意欲を高める。 | — | | |
| | | ・ 3 学年では、生徒がこれまでの多様な経験を生かして自らの将来像を描けるようにし、高校段階での進路指導に繋げる。 | — | | |
| | ・ 進路情報の収集と提供 | ・ 生徒面談を通して、生徒の動向の把握に努める。 | A | | |
| | | ・ 研修会等へ参加して、情報の収集に努める。 | B | | |
| | | ・ 進路資料、情報誌の配布などを通して、生徒・保護者に適切な進路情報の提供を行う。 | C | | |
| | ・ 学力向上 | ・ 各学年や教科で模試結果の分析を行い、指導上の課題を明確化するとともに、職員間で情報を共有化して指導を行う。 | A | | |
| | | ・ 各学年や教科で連携しながら、生徒の家庭学習の習慣化を図る。 | B | | |
| | ・ 学習環境の整備 | ・ 平日や休日に自学自習の場として尚志館を開放し、生徒の自学自習の習慣化を図る。 | A | | |
| 特別活動 | ・ 学校行事の改善 | ・ 各種学校行事の内容の一つひとつを丁寧に検証し、本校として実現可能な魅力ある行事の実践に努める。また、すべての行事において、生徒が主体的に企画・運営に関われるようにする。 | B | B | |
| | ・ 生徒会活動の活性化 | ・ 生徒会役員が生徒代表としての自覚を持ち、各種行事の開催にあたってリーダーシップを発揮し、他の生徒を啓発し牽引できる力を育てる。 | B | | |
| | ・ 委員会活動の活性化 | ・ 各種委員会の活動内容を見直すとともに、学校行事や日々の学校生活の中に各種委員の活動の場を積極的に設け、活用する。 | A | | |
| | ・ 部活動の活性化 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 部・同好会への加入率 80%を達成できるように、部・同好会紹介等の充実と本校伝統の「文武不岐」で啓発する。 ・ それぞれの部・同好会が特性を活かし、各種大会・発表の場に参加し、活動範囲を広げられるよう支援する。 ・ 日々の活動や生活の中に規範意識を持つとともに、互いに協力し合う精神を育てる。また、活動場所の整理整頓を常に心がけ、活動環境を整備美化する。 | B | | |
| | ・ 学級活動の充実 | ・ 学校行事や進路指導に伴う学級活動だけでなく、レクリエーション等、各学級活動ならではの独創性のある活動計画を立て、それらの活動を通して協調性や団結心を養う。 | B | | |
| | ・ キャリアパスポートの活用 | ・ 生徒一人一人が自分の足跡を残せるように意識させ、記録を残していけるように助言・支援を行う。 | B | | |
| 保健安全 | ・ 保健衛生的習慣の確立 | ・ 健康診断の実施による健康把握と適切な保健指導の実施 | A | A | 重点項目に対する重点目標は遂行することができ |
| | | ・ 毎朝の健康管理表による体調の確認と日常的な保健相談活動の実施 | A | | |

| | | | | | |
|-----------------------------------|---|--|---|--|-------------|
| | | ・保健室の円滑な運営の実施 | A | た。 10月には性教育講話も実施し、命の大切さについて考えることができた。 新たに保健室専用メールを開設し、保健室対応マニュアルの更新も行った。 環境衛生点検後の補修や改善は順次実施している。 課題は、毎朝の健康調査を円滑に万全に実施することと、清掃活動をより活発に行うことである。 | |
| | ・清掃活動の徹底 | ・日常的な清掃活動（校舎内外の美化・環境問題への意識高揚） | B | | |
| | ・防災意識の高揚 | ・防災訓練の実施 | A | | |
| | ・環境衛生の整備 | ・環境衛生点検の定期的実施 | A | | |
| | ・学校欠席者情報システムへの報告 | ・学年で連携して実施 | A | | |
| | ・日本スポーツ振興センター保険の活用 | ・各部との連携により有効に活用 | B | | |
| | ・放射線の測定 | ・放射線の定期的な測定と報告の実施 | A | | |
| 図書館 | ・教育課程等の展開に即応した資料の充実 | ・図書館部予算を的確に執行する。 | A | B 予算、図書の購入は順調に的確に執行している。 先生方の協力のもと、資料の収集に努めている。購入希望調査は6月に実施した。随時希望に応じている。 図書委員は貸出業務・館内整理・新規購入本の処理・本の紹介文などの活動を継続できた。 読書関連のイベントとして、「ハロウィン福袋」「図書館総選挙」を行った。また、季節や行事に応じたテーマ本の展示、館内装飾も行った。 | |
| | | ・購入希望図書の調査を実施する。（教員・生徒対象） | A | | |
| | | ・より良い図書を選定するための情報収集を行う。 | B | | |
| | | ・小論文関連の情報と資料を更に充実し、年次・教科・キャリア支援部等の体系的な小論文指導に積極的に関わる。進路実現のための小論文模試や講演会等にも備え、関連図書リストも更新する。 | B | | |
| | ・読書、鑑賞等を通して教養を深め、豊かな人間性を養わせる。 | ・読書感想文コンクールへの応募等を、国語科と連携して実施する。 | B | | |
| | | ・読書会等、読書関連のイベントを企画する。 | B | | |
| | ・図書館の正しい利用の態度を身に付けさせ、自学自習の場としても利用させる。 | ・図書館の正しい利用の態度を身に付けさせ、自学自習の場としても利用させる。 | B | | |
| | | ・各年次とも協力し、自学自習の場としての静粛と秩序が保たれるよう努力する。 | B | | |
| | ・生徒図書委員活動を通して、生徒の自主性を養わせる。 | ・部職員の指導の下、委員会活動を活発化する。 | A | | |
| | | ・図書館報・ミニ図書館報・図書館の展示等に、生徒図書委員を積極的に関わらせ、より新鮮なものにする。 | A | | |
| ・図書館管理システムを更に整備し、利用について即応性を向上させる。 | ・バーコード管理システムを更に充実し、入力・装備の整備等を実施する。 | C | | | |
| | ・規定に則り、図書の合理的廃棄作業を進め、図書資料の更新に努める。 | A | | | |
| ・その他 | ・12月実施予定の生徒図書委員中央研修会に本校生徒を積極的に参加させ、本校図書委員会活動を充実したものにする。 | A | | | |
| 通学支援 | ・スクールバスの円滑な運行 | ・生徒の乗車希望調査を綿密に行い、銚田二高、委託バス会社さらに校内各組織と | B | B | 乗車時の大きな問題もな |

| | | | | | |
|------|--------------------------|--|---|---|--|
| | と安全確保 | 緊密に連絡をとりながら、限られた運行条件・運行資源のなかで最大限乗車需要に応えられる運行計画の策定と適切な案内・安全を保つ乗降指導を行う。 | | | くスクールバスの利用ができた。次年度も引き続き支援していきたい。 緊密な連絡は、概ねとれていたが、限られた運行条件の中で需給ギャップを埋めるためには、情報収集など継続した課題もあり、適切な運行に向け努めていきたい。 |
| 渉外 | ・コロナ禍における状況の変化に対応した事業の遂行 | ・評議員会理事会や後援会総会、生徒指導委員会総会などの事業報告や承認の可否について、封筒や郵送によるアナログなものと、HPを始めとするデジタルなもので学校として可能な手段を用いて、会務を遂行する。 ・収束した場合、役員の方々を中心に協力して頂きながら可能な範囲で事業を行う。 | A | A | コロナ感染症予防もあり、積極的な活動を行うことができなかった。 高校との連携を密にしながら、中学校独自の活動も工夫したい。 |
| | ・渉外部としての、100周年事業の推進 | ・100周年（同窓会）事務局での渉外部の役割を明確にし、連携を図って100周年事業を進めていく。 | B | | |
| | ・附属中も含めた後援会の構築 | ・後援会規約（会則）の改定を行うとともに、附属中の保護者の方から役員を選出する。 | A | | |
| 事務 | ・充実した施設設備の整備 | ・予算については、費用対効果を念頭におき、経済性・効率性・有効性のある、生徒がより良い学校生活を送れるように執行する。 | B | B | 改修要望が強いトイレを次年度県予算で改修予定。 |
| | | ・附属中開設に伴う施設設備を有効に活用するとともに、中・長期的な視点をもって、施設設備の整備充実に努める。破損箇所・危険箇所等については速やかに補修等を行う。 | B | | |
| 1 学年 | ・基礎学力の向上 | ・英語、数学、国語で必要に応じて習熟度別授業を展開し、基礎の定着を図る。 | B | B | 数学において、少人数授業を展開し、きめ細やかな指導ができた。 Chromebookを活用し、復習や課題を自宅で行うことが徹底できた。 面談やガイダンスを通して、自己実現の素地を養った。生活指導をしっかりと行うことで、基本的な生活習慣が身についた。生徒観察を行い、情報共有を徹底でき |
| | ・家庭学習の習慣化 | ・Chromebookを活用し、授業、復習の重要性を認識させ、生徒の家庭学習時間が2時間行われるよう指導し、基礎力の充実に努める。 | B | | |
| | ・進路についての意識 | ・個人面談、進路ガイダンス、大学見学会、職業講話等のキャリア支援を通して、自己理解・社会理解に努め、自己実現の素地を養う。 | B | | |
| | ・基本的な生活習慣の定着 | ・「集団の規律を守り、個々が快適な環境を作るための責任を持つ」という意識を持たせる。その実現を図るために、身だしなみ、挨拶、清掃及び時間厳守について指導する。 | B | | |
| | ・生徒への対応 | ・生徒一人一人の状況を丁寧に観察し、常に情報を学年で共有し、養護教諭や教育相談部及び保護者との連携に努める。 | A | | |
| | ・部活動活性化の促進 | ・部活動への積極的な入部を勧め、様々な自己表現の機会を与え、内面の成長を促す。 | A | | |

